



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.4

【発行日】2010年12月20日 【発行】四日市看護医療大学 庶務課
〒512-8045 三重県四日市市菅生町1200 ☎059-340-0700 ☎059-361-1401 <http://www.y-nm.ac.jp/>

四日市看護医療大学の 意味を改めて考える

図書館長 山崎 正人



2007年春に開校した本学も、あと半年で最初の卒業生を送り出すこととなります。我々が求めてきたのは、まずは、暁学園の「人問たれ」の理念に沿った教育により、人を愛し、学問を愛し、美を愛する学生を育てること、そして、「高度で最先端の看護学芸の教授・研究」を实践すること、さらに、産業都市四日市の地域特性を見据えた、「産業看護を通しての地域への貢献」を行うことです。この3つの目標に向けて、我々教職員と学生が、保護者の皆様や、地域の多くの組織や人々に支えられて頑張ってきたことが結実する時期を迎え、楽しみであるとともに身の引き締まる思いのするこの頃です。

ここでは、私が館長を務める図書館を中心に、本学の最近の様子をご紹介しますと思います。
本学図書館は何もないところからスタートしましたが、蔵書も昨年度にやっと10000冊を超え、ビデオ・DVDの教材600本、和洋雑誌100種類規模になっています。できたての単科大学なので、蔵書数は圧倒的に不足しております。その中であって、閉校した市立四日市高等看護学院からは貴重な書籍や専門雑誌など多数をご寄贈いただいたことには深く感謝しております。また、キャンパスを同じくする四日市大学の情報センターには、文学、芸術を

はじめ、経済・経営学、環境情報学、政治学などの専門書から教養・一般書の多くを利用させてもらい、さらに、大学間連携の制度により、三重県内の大学など多くのご支援を得て看護医療の専門図書館として運営しております。
また、本学図書館の一般利用者の登録も350名を超え、最近では、本学学生以外の利用も目立って増加し、看護医療専門の図書館として北勢地域の看護関係者に役立つ存在になり、地域への貢献もできはじめていることを実感しています。

そして、図書館は、学生にとっては自己学習の場です。特に夜間は、9時までの開館時間中、書籍を借りて調べ、さらにインターネットからの新しい情報を加え、時にはロビーで教員を交えて議論する中からレポートを書いて熱心な学生たちの姿が見られます。学生の利用は学年が埋まるにつれて加速度的に増え、入館者数は初年度1日平均で83名貸し出し冊数2381冊から、昨年度は156名で9441冊となっています。今年度は4年生の卒業研究もあり大幅に増えています。図書館の活発な利用状況は、新しい大学ならではの熱さを表しているものでもありと考え、スタッフ一同

精一杯努力しているところです。
また、教育後援会のご支援をいただいて、学内のコンピュータからはWebを使った国家試験対策の教材で独習できる環境にあり、夏休み前後から学生の利用が増えています。

本学図書館前のホールは、学生のサロンであり、いつも賑やかで、学生間の交流の場として様々な活用されています。カリキュラムが学年単位でがちりと組まれているのと、臨地実習が多いことから、学生の交流も学年単位の狭いものになりがちな看護学生にとって、友人の輪が学年を超えて広がる場であり人間の輪を広げる大切なサロンなのです。また、ここは、我々が教員が講義を離れて学生とコミュニケーションをとれる大切な場でもあります。いわば、講義や実習以外での人間を磨く場なのです。
近年、看護職の活躍の場は病院・診療所にとどまらずに介護施設・保育園から、産業の現場における健康管理・健康増進、そして、地域の高齢化が進む中、生活の至る所でその存在が大きくなってきています。本学は、幅広い社会のニーズに応えつつも、特に産業都市四日市を活気にあふれつつ暮らしたい街にするための看護教育・研究に貢献していきたいと考えています。

平成22年度 入学式

入学式が平成22年4月1日(木)午前10時から行われました。当日は四日市市副市長、四日市市議会副議長、市立四日市病院 院長、市立四日市病院 看護部長、三重県看護協会専務理事にご臨席いただきました。

河野学長の入学許可宣言に始まり、式は滞りなく終了し、本学4期生となる104名と編入学生2名の合わせて106名は、次週から始まる修学に向けて決意を新たにしていました。



平成22年度 病院奨学金制度 説明会

4月14日(水) 学生ホールにおいて、「平成22年度病院奨学金合同説明会」が開催されました。当日は、1年生を中心に約50名の学生が参加し、各病院や三重県(看護職対象)の奨学金制度について真剣な表情で説明を受けていました。本会は奨学金制度についてはもちろんのこと、各病院について詳しく知ることができるため、今後の臨地実習や将来の就職・進路を考える上でも大いに役立つ場となります。



〈参加施設 /五十音順〉 いなべ総合病院、大仲さつき病院、山本総合病院、四日市社会保険病院、三重県(健康福祉部)、三重県(病院事業庁) 等



教員の声

基礎看護学 講師 小笠原 ゆかり

早いもので四日市看護医療大学での四回目の冬がやってきました。四年前は一期生だけでがらんとした大学構内も、今では一期生から四期生までのたくさんの学生でいっぱいになり、学生一人ひとりが充実した大学生活を送っています。図書館前の一階のラウンジにはいつも、「楽しそうな表情」「いきいきとした表情」「少し落ち込んだ表情」「涙を見せる表情」いろいろな表情の学生がいます。グループワークで意見を交し合ったり、お友達とおしゃべりしたり、実習がうまくいかなくて悩んだり、一階のラウンジは学生たちの様子が一目でよくわかります。そして私が一階のラウンジを横切る時はいつも、講義のわからないことの質問や嬉しいことの報告をしようと、多くの学生が声を掛けてきます。



「看護学」を学んでいく大学での四年間、学生たちは講義や演習、実習での学びだけでなく、大学でのさまざまな経験を通して人間として、そして看護職として成長しています。



学友会

新入生歓迎会 四看大へようこそ!

春風薫る4月2日(金)の午後、学友会主催による新入生歓迎会が学生食堂にて開催されました。

全学年の学生、学長はじめ多くの教員の参加があり、席が足りなくなるほどの賑わいをみせていました。歓迎の言葉やクラブ・サークルの紹介・勧誘、ビンゴなどのゲームで親睦を深め合い、緊張気味だった新入生の表情も徐々に和らぎ、いい雰囲気の中で、大学生活のスタートにふさわしい交流の場となりました。

本会を企画運営し、その役割を見事に果たした2・3年生らの真剣で凛々しい姿に、成長ぶりも垣間見ることができました。



随筆 眠りについて

母性看護・助産学 教授 赤井 由紀子



人は何故、眠るのか? 「睡眠は脳の発達とともに発達し、同時に、脳は睡眠の発達とともに発達する」と言われています。そのため、睡眠は年齢によって大きく変わり、睡眠そのものが発達途中にある子どもの時期に、適切な睡眠の習慣を身につけることが大切になります。

どの短い期間に完成することから、生まれてから乳児期の環境が、とても大切になります。私自身は睡眠の研究を始めるまでは、眠ることに関係して無頓着であつたと思います。夜、電気をつけたまま就寝したり、睡眠時間が短かつたりしました。

そのため、翌朝は眠つたのに、熟睡感がなく、「何だか疲れている」という感じがありました。何故だろうと思いつながら、日々を過ごしていたのですが、睡眠の文献を読んでいくと、メラトニンという睡眠に関係するホルモンの増加し、昼間に減少します。夜遅くまで蛍光灯の光を浴びて起きていると、

メラトニンの分泌が抑制されて眠りが促されないのです。夜は部屋を暗くして眠る環境を作ることが大切です。学生の皆さんは試験の前や実習で寝不足が続くかもしれませんが、眠る時は早く疲れが回復するように部屋の電気を消して就寝するようにしてください。

まだまだ、研究途中ですが、メラトニンは強力な抗酸化作用を有することが知られています。メラトニンは25億年前から地球に存在する、最も古い抗酸化物質で(酸素の毒性から細胞を守る作用)、老化防止や抗ガン作用があるとする研究者もいます。

はつきりと目覚めている状態から規則正しい寝息が聞こえるまでの「入眠期」という時期があります。この「入眠期」は、うとうと状態で閉じたまぶたの下に色のついている光や幾何学模様が見えてきます。その状態からしばらくするとくたものや花など静物が見えたり、広々とした草原や湖が現れたりします。1867年エルヴェ・ド・サン・ドニ侯爵がこの入眠期に現れる幾何学模様が好きで、22巻の夢絵日記を出版したことはとても有名なお話です。このようなイメージ体験を「入眠時心像体験」といいます。一方、入眠時心像体験を悪魔のしわざと拒絶した人々もいます。眠気をもたらす悪魔を「睡眠魔」と呼び、入眠時心像こそが姿をあらわした煩惱と考えられていました。私たちは毎晩、この入眠時心像を体験しているのですが、日々の忙しさの中で、思いつくこともなくあわただしく生活をしていく方がほとんどではないでしょうか? ゆつたりとした時間の中で、一度、どんな入眠時心像が登場するか、今夜、体験してみてください。思いもよらない美しい映像が目の前にひろがるかもしれません。

(引用・参考文献は省略)

教育後援会役員会・総会

6月5日(土)、本学キャンパス内の第一会議室において、平成22年度教育後援会総会が開催されました。当日は、役員、顧問を含め30名弱という少し小規模な会議となりましたが、児玉会長のご挨拶で始まり、昨年度の事業報告および決算報告、役員選出、平成22年度の事業計画および予算案について審議され、すべて承認をいただきました。また、質疑応答の時間を設け、参加された保護者の方々から質問をあげていただきました。やはり授業、実習に関する質問が多いようで、教育後援会顧問である学長、副学長、学科長より直接ご回答させていただく形を採りまして、質問された方々にはご納得いただけたのではないかと思います。その他にもさまざまな意見交換がなされ、内容の充実した有意義な会になりました。



教育後援会総会の様子

保護者懇談会

今年度で第4回目となる教育後援会主催の「保護者懇談会」が、10月2日(土)に本学内で開催されました。午前の全体会では、河野学長より本学の現状について説明があり、続いて宮崎学科長より本学のカリキュラムについて説明がありました。その後の質疑応答では、保護者から様々な質問が出され、活発な意見交換がなされました。終了後は会場を学生食堂に移し、昼食を兼ねて懇親会が行われ、保護者と教員、あるいは保護者同士が和やかな雰囲気の中で、活発に交流する場面が見受けられました。午後からは、アドバイザーの教員による個別面談が行われました。アドバイザー制度とは、学生を15名程度の少人数グループに分け、担当する教員が学生生活全般をきめ細かくサポートする本学独自の制度で、個人面談では、学生の現状をよく把握している教員から、学業を含めた現状や今後のアドバイスなどを聞くことができそうです。今後とも保護者の方々にとって有益な情報を提供できる保護者懇談会にしていきたいものです。



懇親会の様子

大学との懸け橋

職員 研修会

F D (Faculty Development) 教員の教育力向上を目指して

F Dとは…教員の教育力、研究力を向上させるための組織的な取り組みの総称

〈F D ワークショップ〉

学長・F D 委員会委員長 河野 啓子

平成19年4月に設立された本大学は、今年、完成年度を迎えました。開学当初より、教育力と研究力を高めるためのF D (Faculty Development) 活動に力を入れ、全教員参加を原則に、組織的な取り組みをしてきました。過去3年間は、教育力の向上、つまり、「学生が主体的に、そして意欲的に学習できるようにするにはどうしたらよいか」を中心テーマとして活動し、大きな成果を上げました。

今年度からは活動の目標として、教育力の向上に研究力の向上を加え、以下の活動を行っています。なお、①はすでに終了し、②と③は継続中です。

①「看護教育のあり方」に関するグループ討議と講演会

9月2日、教員が4つのグループに分かれて「看護教育のあり方」を討議し、引き続き名古屋大学医学部保健学科 山内豊明教授に「大学における看護教育の現状と質

を高めるために共通理解しておくべきこと」をテーマとして、ご講演をいただきました。

② 授業評価の方法・活用方法など、授業評価全般の検討

③ 研究セミナーと研究活動報告会の開催

9月に開催された、本年度第1回目のF D 研修会についてご報告します。

当日は、「看護教育の質を高める」をキーワードにグループ討議を開催後、名古屋大学医学部保健学科 山内豊明教授に「大学における看護教育の現状と質を高めるために共通理解しておくべきこと」についてご講演いただきました。

グループ討議では、教員各自が大学における看護教育の特徴と教育の質を高めるための工夫について、活発な意見交換を行いました。学生の多様性を尊重し、主体性を引き出すための教育の工夫など、今後に生かせる議論となりました。

また、講演では、教育者の役割・関わりを「登山ガイド」あるいは「カーナビ」に例えてお話頂きました。学生が自力で山頂にたどり着けるよう、目的の明確な設定、過不足のない情報提供、多様な学習者への臨機応変さなど、ワークショップ同様、教員の立ち位置を確認する機会となりました。

今回のF D 研修会により、より豊かな質の高い教育を実現するという想いの再確認、そして道筋が明らかになったと考えます。

産業界と連携し、実践的な学びを推進する

ハラスメント研修会

職場のハラスメント対策の研修

ハラスメント対策委員会委員長・教授 近藤 信子

去る8月2日(月)当大学ハラスメント対策委員会は、平成22年度ハラスメント対策研修会を実施しました。ハラスメント対策研修会は1回/年実施されることになっており、今年度は三重県産業保健センターの相談員でもある弁護士田田武一郎先生に「教育機関におけるパワーハラスメントの予防と対応」についてご講演をお願いしました。対象は全教職員で、当日研修会に参加した教職員は34名で、講師の先生の講演に熱心に耳をかたむけていました。講演内容は、ハラスメントに関する一般理解、職場におけるパワーハラスメントの現状、増えている背景、種類、いじめ、パワハラをめぐっての判例動向について先生が手がけた判例なども含めて幅広く解説していただきました。現実の問題として、パワーハラスメントを生じさせない職場環境の醸成に一人一人が心掛けてゆくことが如何に大切であるか、そして皆がこの問題に敏感になることが予防につながるということを確認しました。

アドバイザー研修会

アドバイザー研修報告

学生委員会委員長・教授 近藤 信子

学生委員会では学生支援の一環としてアドバイザー制度を取り入れ、学生に対



今年度のオープンキャンパスが、7月18日(日)、8月22日(日)に行われました。開催日を高校の夏休みにしたこともあり、両日を合わせ461名という大変多くの高校生および、そのご父兄にご参加をいただきました。参加者の中には、鹿児島、大阪、長野など遠方からの参加もあり、本学への関心の高さをうかがえました。当日の内容として、午前中の全体説明会では、河野学長のご挨拶から始まり、四日市市の保健所長、健康部長から本学への支援制度などについてのお話しをいただき、その後今年度の入試説明を行いました。学生食堂でのバイキング形式の昼食をはさみ、午後は、模擬講義、看護実習体験、学内見学など自由にイベントに参加いただき、大学の雰囲気を感じていただく時間としました。また、学生ホールでは相談コーナーを設け、入試や奨学金、大学生生活などにつ



いて、熱心にスタッフの話しに耳を傾ける参加者の姿が多く見られました。参加いただいた方のアンケートを見ますと、「進路を考える上で非常に参考になった」、「設備が新しく充実していた」、「対応されたスタッフが親切で、説明がわかりやすかった」などの感想をいただき、概ね満足いただけたのではないかと考えられます。来年度は更に充実したオープンキャンパスにできるよう努めていきたいと考えます。

するきめ細かな支援を継続的にすすめています。アドバイザーとして学生を担当している先生方は、学生の生活や学業に対する学生の悩み、困り事等多様な問題に向き合い解決への道を一緒に探るという作業をしています。学生の抱える問題は、個別的で独自の、かつ多様であり、中には学生生活全般にわたって消極的であり、困難をかかえている学生もおり、このような状況にどう対応するか先生方は苦慮していることもあります。学生委員会では、去る9月8日(水)、アドバイザーの先生方を支援するため、教員の学生支援の充実に向けて具体的な方策を探るための研修会を実施、教員の参加者は30名でした。

今年度は本学の非常勤講師であり四日市大学の総合政策学部長の松井真理子教授、鬼頭浩文教授、寺石悦章准教授をお招きして、四日市大学の教員として日頃の授業中で心掛けている学生とのコミュニケーション、考える力をつけること、知への好奇心をどう高めるか、現実社会と繋がりやどう気付けてもらうかなど、教え方の工夫や学生へのメッセージの発信の工夫について語ってもらいました。その後四日市大学の先生を囲み、他大学の教員がみた看護系学生の特徴、他大学の授業の特徴などについて意見交換をおこないました。アンケート結果では、研修内容について全員がよかったと答えており、他分野の教員との交流から私たちが自身も刺激され新しい学びの機会となったことが伺えました。

実習学生コメント

成人看護学実習 3年 阿部 梨恵

3年生の後期になり、9月27日から臨地実習が始まり、まずはじめに私は成人看護学実習で慢性期病棟に実習に行きました。在宅への移行を目前にした患者様を受け持ちました。患者様が疾患を抱えながら在宅で療養を行うために、患者様の家族の方が積極的にケアに参加する姿を目にすることができました。このことから、在宅への移行に向けては、退院後の自己管理を行う上で、家族の協力・受け入れ体制を構築することが大切であるということを知りました。そのため、家族の方が患者様が退院するまでに不安なく療養できるように知識を身につける必要があるため、病院は治療を行う場だけでなく、家族の方にとって見学・体験・実施を通して学ぶ場であり、技術を身につけるための教育の場でもあることを理解することができました。今後この学びを他の領域でも活かしていきたいと思えます。

精神看護学実習 3年 辻 絵理

当初は、精神科の病院の具体的なイメージを持っていませんでしたが、実際に病院に行くと、明るく話し声や笑い声が飛び交っており、病棟内に入った瞬間に精神科の病院に対するイメージが変わりました。この実習では、コミュニケーション技術について深い学びを得ることができました。実習を通して、コミュニケーション技術とは単に笑顔で真剣に患者様の話を聴くだけでなく、患者様の言葉・態度・表情を注意深く観察・考察し、患者様の内面を知ることが重要であると学びました。この実習で得た学びを今後の実習に活かしていきたいです。



教員の出版図書紹介

「すぐに役立つ産業看護アセスメントツール」

河野 啓子 監修 (株)法研 2005

看護の実践は、看護過程（アセスメント→看護診断→計画・立案→実施→評価）に則って行われますが、本書は産業看護実践の第1段階であるアセスメントのためのツールを示したものです。つまり、本書では、働く人々を全人的に理解し、その人の“問題点”や“強み”を明らかにするためにはどのような情報を収集し、それらの情報をどのように解釈すればよいのかについて、具体的なかつ分かりやすく解説しました。内容は3章から成り、第1章は産業看護の本質論、第2章が産業看護とアセスメント、第3章が産業看護アセスメントツールで構成されています。



本学図書館にて閲覧できます。



平成22年度臨地実習 ~4年生の助産学実習も始まる~

平成22年度臨地実習は8月からの4年生の助産学実習をかわきりに、本学では2回目となる3年生からの1年間にわたる長丁場の各領域実習が9月27日よりスタートいたしました。

現在4年生となる第1回生の実習では、教育後援会始め、臨地実習施設関係各位及び直接実習指導に携わってくださった皆様のご協力とご支援をいただき感謝しております。

学生は1年次からの実習を積み重ね、まだまだ未熟ではありますが本学臨地実習の目的である対人関係能力・判断能力・看護実践能力・問題解決能力を養い、人間愛・倫理観に基づく人間尊重の態度や自己の成長を育んでまいりました。また、実習場所での指導者やスタッフの皆様の働く姿と直接に接することで看護の魅力や職業人としての責任感を新たに、貴重な体験をさせていただきました。

今年度も、実習関係各位と打ち合わせ会議など話し合いを重ねながら、実習への共通理解や実習環境の充実に向けて協働していきたいと考えております。より一層のご協力とご支援をお願いいたします。

山本 美佐子

「あなたがいてくれてよかった」。猛暑の中始まった助産学実習で幾度となく聞いた受けもちさんからの言葉です。学生たちは、分娩介助、産褥期ケア、妊娠前から産後1ヶ月健診までの継続事例実習と、対象者や指導者とかかわる中で様々な学びを得るとともに一人の人間として大きく成長しました。助産師として基本となる理論や技術、判断力、いのちの誕生場面に立ち会い寄り添うことの喜びと責任の大きさ。現任も昼夜交代の分娩介助実習中です。自身の健康管理も含めさらに学びを深めて欲しいと思います。10月25日から母性看護学実習も始まりました。学生たちは母子とその家族を受けもち、初めての体験に戸惑いながらも懸命に産や新生児のケアなどに取り組んでいます。この実習が学生たち自身母性や父性を育てる契機となるよう願っています。

助産学および母性看護学実習現場レポート

母性看護学・助産学・准教授 牛之濱 久代

老年看護学実習現場レポート

老年看護学・講師 荻野 朋子

老年看護学実習は、介護老人保健施設で行う「老年看護学実習Ⅰ」と病院で行う「老年看護学実習Ⅱ」で構成されています。今回は、介護老人保健施設での実習レポートです。施設では、様々な健康問題や障害を抱えながら生活をしている高齢者の方を受け持ち、健康と日々の食事、排泄、活動などその人らしく生活することを支援します。しかし、対象者のその人らしさをとらえるのは、とても難しいことです。90歳、100歳の方の人生をそんなに簡単に知ることはできません。年表を頼りに明治・大正・昭和の時代の出来事を話題に、CDから流れる懐かしい曲と一緒に口ずさむことができると、自然に笑顔が生まれます。その人の生活史に関心を寄せ、そして、障害や不自由ばかりに目を向けるのではなく、その人のもてる力や強みをみつけ、希望や願いが少しでもかなうようにと毎日頑張っています。

未知の世界への大冒険!!

2年生 中村 龍太郎/伊藤 朋樹

僕たちは夏休みにアメリカへ思い出という名の宝物を探しに行ってきました。たくさんの期待と不安が入り混じりながらも、楽しい3週間を過ごすことができました。

この冒険では多くのことを学び知ることができました。僕たちにとってアメリカで見ること、感じるものの全てが新鮮で、刺激的な毎日を送ることになりました。最初の1週間は買い物に行くにしても周囲は自分と違った外見の人ばかりで緊張していたり、話しかけられてもその人が言いたいことがうまく理解することができなかつたりして、気を張る日々を送っていました。しかし、話しかけてくれる全ての人が明るく「No problem」と励ましの言葉をくれたので、少しずつアメリカの人たちと慣れることができ、研修を楽しんでいると感じ始めるようになりました。

冒険をした四日市看護医療大学のみんなとは授業でしか接する機会がなく、今まで話したことのない人もいました。最初は恥ずかしくて名前も呼ぶことも出来ず、話しかけることも出来ませんでした。しかし、アメリカの明るい人たちと接しているうちに、勇気を出して「No problem」精神で話しかけることによって、気がつけば気軽に話せることができるようになっていました。同じ寮で過ごしていたので、服を洗濯するときにすれ違うことも多々あり、その度にベンチでゆっくり話したりしているうちに、みんなとの仲がどんどん深まっていきました。そのため研修の最終日は、こんなすばらしい仲間との冒険も最後だと思うと涙が止まりませんでした。

本当に大好きな友達、先生方、アメリカの人たちと過ごした3週間はかけがえのない時間となり、一生の宝物になりました。これらの宝物はいつまでも持ち続け、これからもこの宝物の価値を下げないために毎日磨き続けていきたいと思っています。(笑)

海外研修体験記



海外研修に参加してみた

2年生 北森 史佳

たくさんの希望者がいた中、この海外研修に参加できたことをとても嬉しく思います。3週間という期間は長いようであつという間でしたが、とても濃い時間を過ごすことができました。

まだまだ勉強不足で理解が足りないところもありますが、日本とアメリカの医療制度の違いを多少なりとも知る良い機会になったと思います。

始めはなかなか英語でコミュニケーションが取れず、もどかしい思いもしましたが、知っている単語を組み合わせたり、身振り手振りを交えたりして、自分の言いたいことが相手に伝わったときは本当に嬉しくなりました。

研修中に20歳の誕生日を迎えたメンバーのバースデーパーティーを行ったのはとても素敵な思い出です。集団生活の難しさや大切さ、楽しさを実感でき、とても良い経験になりました。

この研修を通して、様々なことを肌で感じながら学ぶことができ、たくさんの方々とも会うことができました。この経験をいつまでも忘れずに、これからの学習を活かしていきたいと思っています。



看護×語学+仲間 =海外研修

研修先：米国カリフォルニア州立大学
ロングビーチ校
研修期間：8月1日～8月23日
研修対象：2年生30名
研修内容：語学および看護学の研修

この海外研修のプログラムは、英語を学ぶ語学研修とアメリカの看護について学ぶ看護研修から構成されています。語学研修は、国際的に通用する看護師となるために必須の語学力向上を目指して取り組まれます。それと同時に、人間を相手とする看護職にとって不可欠な「コミュニケーション」能力を高めることやその重要性についても学びます。看護研修は、病院など現地の医療施設に出向き、アメリカの医療機関で実際に研修されている看護生を見学し、日本における看護との比較を通して、看護のあり方を学ぶことを目的としています。他国の看護の表情を自分の五感でキャッチし学ぶことは、日本の看護の現状を客観視することにつながり、今後それをより深く追究していくためにも、その意義は計り知れないほど大きなものとなるはずです。

この心さらに豊かなものにしていくことが実感できます。二十一世紀に入り早くも10年が経過していますが、グローバル化の潮流は経済だけではなく、看護や医療の世界にも押し寄せてきています。柔軟な頭脳と鋭敏な感性を持つ若い世代が早くから海外に目を向け、積極的に異文化との交流を進めていくことは、日本の看護の質の向上にとっても大変有益であると考えています。国際交流委員会では、このような観点から今後もカリフォルニア州立大学ロングビーチ校での海外研修を継続させてゆく方針です。

(国際交流委員会)



海外研修レポート

基礎看護学 助教 加藤 睦美

「フリータイムはこれだけ」「共同で生活するのはつらい」とバカンス気分スタートした海外研修でした。衣食住・言葉と初めて体験することが多く、日本・家族・友人が恋しくなる日もあったと思います。24時間3週間ともに皆で、生活をする中では些細な衝突があるのは当然のことです。しかし、「勉強をしにきたから遊ぶことばかり考えてはいけません。グループで考えて乗り越えていかなければいけない」という気づきから始まった学生達の自主的な行動は、様々な葛藤や悩みを乗り越え、学生間での学びあいそして成長を助け合う姿に変化していま

した。未来ある学生達にとってたったの3週間でしたが、語学力の向上や看護実践の場である施設見学を通して見聞を広げただけでなく、カリフォルニア・ロングビーチの環境の中で自然を見て感動する感性を高め、他者を思いやる気持ちや他者と共同して生活することなど看護する上で重要なKYEとなることを学習し自己成長させていました。大学内では、教員には(もしかすると友達にも?) 見せない表情や行動や学生の素の姿を身近でみることができました。引率教員だからこそ感じられる、見られる特権だと思っています。今、学生達は、日本での環境の中で以前と同じように生活していますが、研修での体験が彼女ららの未来にどのように影響をしてくのか老婆心ながら見守りたいと思っています。

第4回 10月23日(土)▶24日(日) よんよん祭



テーマ「笑劇」 ～真面目にとことん馬鹿になれ～

今年の大学祭は、隣接する四日市大学との2回目の合同開催となりました。両大学がそれぞれのカラーを出し、趣向を凝らして盛り上げてくれました。

本学の学生達は、お化け屋敷、身体計測、ストレスチェック、パパママ体験、高齢者体験、車椅子体験、献血、模擬店、ダンス、バンド演奏、制服コンテスト、男装女装コンテストと、多くを企画・運営し、連日遅くまで準備や練習に励んでいました。当日はその疲れも見せず、皆の弾ける笑顔と活気に満ちた大学祭となりました。



大学祭を終えて…

今年の大学祭は、ステージ企画が充実していて、とても盛り上がったなあというのが感想です。看護医療大学内で行った模擬病院や、昨年からの、もはや名物とまでなったかと思われるお化け屋敷は、人気が高く『本当に怖い』と感想をもらすお客さんも多数見受けられました。

四日市大学の皆さんや看護医療大学のメンバーが、準備から片付けまで一生懸命頑張ってくれました。今年の大学祭は、そんなみんなの力のおかげで大成功だったと感じています。そして、このメンバーでやれて本当に良かったと思います。

2年生(大学祭実行委員長)
名嘉山 嵩忠

昨年と同様に四日市大学と四日市看護医療大学の合同開催ということで、両大学の大学祭実行委員が集まり、テーマを「笑劇 ～真面目にとことん馬鹿になれ～」と決定しました。今しか出来ないことをひた向きに本気で…。そんな想いを込められたかなと思います。今年、四日市看護医療大学は全学年揃い、リスタートの年にもなりました。ここから新たな伝統が築かれていくことと思います。大学祭の準備のために沢山の方々のお手をお借りしました。ここに感謝の意を表したいと思います。

2年生(大学祭実行委員 会計)
中井 良美

社会貢献活動 ～地域に根ざし、社会に貢献～

2010.7.9 [Fri] みえアカデミックセミナー2010
『アメリカと日本の文化の違い:文化のDNAを探す』を開催しました。

平成22年7月9日(金)、三重県生涯学習センター2F視聴覚室にて、「みえアカデミックセミナー2010」の公開セミナーを開催しました。

「みえアカデミックセミナー2010」は、三重県内の高等教育機関と三重県生涯学習センターが主催し、「心豊かな人生へのアクセス」という全体テーマのもと、各校が1日ずつ公開セミナーを担当するというものです。



今回は、Daniel T. Kirk教授が「アメリカと日本の文化の違い:文化のDNAを探す」という演題で講演を行いました。

アメリカと日本の文化の違いを分かりやすく、時折、ユーモアも交えて説明。会場からは何度も笑いが起こり、参加者も楽しみながら聞いていただきました。

あいにくの天気の中、91名ものご参加をいただき、心より御礼申し上げます。

【主催】三重県内高等教育機関、三重県生涯学習センター



2010.7.25 [Sun] 平成22年度四日市看護医療大学公開講座
『職場いきいき!こころの健康の保ち方』を開催しました。

平成22年7月25日(日)、四日市商工会議所1Fホールにて、平成22年度四日市看護医療大学公開講座『職場いきいき!こころの健康の保ち方』を開催しました。



働く人々のこころの健康の保ち方について、本学 近藤 信子教授が講演、ストレスチェックとハーブティー試飲の体験コーナーも好評でした。

今後も本学らしい公開講座を企画して、地域貢献に努めていきます。

【主催】四日市看護医療大学、四日市商工会議所



マヒドン大学来訪

去る5月11日、タイ王国バンコクのマヒドン大学から、教員2名を含む10名の研修生が本学に来学しました。研修生は修士課程の大学院生が中心で、日本の産業看護活動、本学の教育体系や教育理念について熱心な意見交換がなされました。大学構内の見学では、コンピュータ室や図書館・実習室等で自己学習やレポート作成に励む本学学生との交流も楽しんでいる様子でした。



四日市看護医療大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程の概要

- **開設時期**
平成23(2011)年4月
- **研究科・専攻名**
看護学研究科 看護学専攻(修士課程)
- **修業年限**
2年 ※修業年限3年の長期履修制度も設けます。
- **取得学位**
修士(看護学)
- **定員**
入学定員10名 収容定員20名
- **研究・教育領域**
学生の学修目的に合わせて、以下の2つのコースを設置します。

○修士論文コース

専門性を高め、教育・研究能力の開発・向上を目指すコースです。産業看護学領域(産業看護学、産業精神看護学)、実践看護学領域(母子支援看護学、急性看護学、慢性看護学、老年看護学)、基礎看護学領域(基礎看護学)の3領域を設けます。

○専門看護師(Certified Nurse Specialist:CNS)コース

将来、専門看護師(CNS)を目指すコースです。高度な専門知識と技術を持つ専門看護師の養成を目指し、日本看護系大学協議会の定める専門看護師教育課程の基準に従い、実践看護学領域の母子支援看護学に「小児看護」、急性看護学に「急性・重症患者看護」、慢性看護学に「慢性疾患看護」の専門看護師教育課程をそれぞれ併設します。

研究科・専攻及び入学定員標準修業年限2年(長期履修制度3年)

研究科	専攻(課程)	コース	専攻領域	入学定員
看護学研究科	看護学専攻(修士課程)	修士論文コース	産業看護学領域 産業看護学 産業精神看護学	10名
			実践看護学領域 母子支援看護学 急性看護学 慢性看護学 老年看護学	
		専門看護師(CNS)コース	実践看護学領域 母子支援看護学(小児看護) 急性看護学(急性・重症患者看護) 慢性看護学(慢性疾患看護)	

※本研究科の専門看護師(CNS)コースは、日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程に合致した教育課程となっており、コースの教育が開始された2年目以降に日本看護系大学協議会での審査の対象となります。本研究科では、平成24年度内の指定された時期に日本看護系大学協議会へカリキュラム審査を申請する予定です。その時点で、2年次に在籍する学生の教育が開始された年度(平成23年度)に遡及して認定されます。この課程を修了し、規定の年数の実務研修(通算5年以上。そのうち3年間以上は専門看護分野の実務研修。このうち6ヵ月以上は修士課程修了後の実務研修)を積んだ方は、(社)日本看護協会が年1回実施する「専門看護師認定審査」を受けることができます(詳しくは、(社)日本看護協会のホームページをご覧ください)。

■社会人への対応

昼夜開講の実施

現在の勤務を継続しながら大学院で学修できるよう、平日の午後6時以降や土曜日に授業を行うほか、夏期休暇等を利用した集中講義も併せて行います。(大学院設置基準第14条特例の実施)

長期履修制度の導入

仕事を有しているなどの理由により2年間の標準修業年限で修了が困難な学生に対して、在学3年間の長期履修学生の制度を設けています。

■入学者選抜

一般選抜及び社会人特別選抜を行います。入学試験の概要は以下の通りです。詳細については、必ず募集要項で確認してください。

○試験日程

〈Ⅰ期入試〉(一般選抜、社会人特別選抜共通)

出願期間	入学試験日	合格発表日
平成23(2011)年 1月11日(火)~21日(金)	平成23(2011)年 1月30日(日)	平成23(2011)年 2月7日(月)

〈Ⅱ期入試〉(一般選抜、社会人特別選抜共通)

出願期間	入学試験日	合格発表日
平成23(2011)年 2月14日(月)~25日(金)	平成23(2011)年 3月6日(日)	平成23(2011) 3月14日(月)

※出願前に必ず志望する領域・分野の研究指導教員と連絡を取り、研究・教育活動について事前相談を行ってください。

○ **募集人員** Ⅰ期入試、Ⅱ期入試合わせて10名(社会人特別選抜若干名を含む)

○ **試験会場** Ⅰ期入試・Ⅱ期入試ともに本学(四日市市萱生町1200番地)

○ **試験科目** (Ⅰ期入試・Ⅱ期入試共通) 専門科目、英語及び面接

○個別の出願資格審査

〈Ⅰ期入試〉

審査受付期間:平成22(2010)年12月13日(月)~20日(月)

審査結果通知:平成22(2010)年12月22日(水)以降

〈Ⅱ期入試〉

審査受付期間:平成23(2011)年1月24日(月)~2月2日(水)

審査結果通知:平成23(2011)年2月4日(金)以降

問い合わせ先入試広報室 TEL 059-340-0707

大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)の設置が認可されました

本学では、多様化・高度化する看護ニーズに対応する専門知識・技術を有する高度実践看護専門職や看護学の発展に寄与・貢献することのできる教育・研究者を養成するため、平成23(2011)年4月に大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)を開設することとし、本年5月末、文部科学省へ設置認可を申請しました。その後の審査を経て、去る10月29日、文部科学大臣より正式に設置が認可されました。

本研究科では、暁学園の学園綱領「人間たれ」の精神に則り、「人を愛し、学問を愛し、美を愛する心豊かな人間」の育成に努め、生命の尊厳と深い人間理解、多様化・複雑化・高度化する保健・医療・福祉の進歩、ニーズの変化に対応できる、広い視野を持つ感性豊かな看護専門職の養成を目指しています。

本研究科においては、この教育理念に基づき以下の3つの教育目的を設定しています。

◆生命の尊厳と深い人間理解への指向

人間を対象者とする看護においては、何よりも豊かな感性と高い見識が求められます。本学園の建学の精神である「人間たれ」の「人を愛し、学問を愛し、美を愛する心豊かな人間」を育てることを基盤とし、生命の尊厳と深い人間理解に基づく実践者の育成を目指します。

◆社会性への指向

本学の位置する四日市市の社会環境も次第に変化してきており、高齢化と少子化が進み、生産年齢人口の減少が起っています。疾病構造が変化することに伴い、対象者の看護ニーズも変化しています。

また、四日市市は産業都市であることから、産業看護の知識・技術をもった高度な看護専門職の育成が求められています。さらに、北勢地域は外国人登録者の割合が高く、これらの人々も様々な健康課題を抱えています。

このような状況を踏まえ、社会的要請に応えるべく、体系的に看護学を学ぶプログラムを展開し、「社会に開かれた」大学を目指します。

◆多様性への指向

看護学の研究・実践分野には個人としての個人及び人間関係を含む人文・社会科学的要素と、生物体としての個人に対する自然科学的要素が内包されています。

本研究科では、これらの要素を適切に解析し、複雑で多様な人間と社会を全体的に捉え、健康の維持・増進、疾病の予防、治療ケアに役立たせることを目指します。

教育理念・教育目的を踏まえ、本研究科では、看護分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究者の人材を育成します。

また、地域特性を踏まえ、核家族化の進行に伴う子育て支援を充実させるための「小児看護専門看護師」、生活習慣病予防、慢性疾患管理など病気が障がいをもちながら暮らす人々

のQOLを向上させるための「慢性疾患看護専門看護師」、突発的な事故や重篤な疾病により生命の危機的状況にある対象をケアするための「急性・重症患者看護専門看護師」を育成します。

さらに働く人びとへの健康支援充実のため、産業看護の教育・研究能力、実践能力を有する人材の育成も重視します。具体的には、次のような人材の育成を目標として掲げています。

- 広い視野と柔軟な思考力・想像力をもち、看護科学の開拓と進展に貢献できる看護教育・研究能力を有する人材を育成します。
- 進行する少子・高齢社会に対応して、保健・医療・福祉システムを創造的に構築できる企画・調整・統括的能力を有する人材を育成します。
- 急激に変化する経済・社会の動向に対応し、活力ある地域社会創造のためにリーダーシップを発揮でき、対象者のみならず家族や地域の健康促進に貢献できる人材を育成します。
- 人々の生活改善に直結する質の高い看護を提供するために、高邁な倫理観を持ち、高度な専門知識・技術を有する看護実践者を育成します。
- 産業構造の急激な変化に伴い、社会的に必要性が高まっている産業看護の専門的知識を有する人材を育成します。

本学では、大学院開設を機に教育・研究のより一層の高度化を図り、地域社会に対してこれまで以上の貢献ができるよう努めてまいります。引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年度学生公認団体クラブ (五十音順)

文化系

- 家庭科部
- 軽音学部
- ボランティアサークル

体育系

- 硬式テニス部
- 卓球クラブ
- バレーボール部
- ゴルフサークル
- バドミントン部
- 陸上球技部
- ジャズダンス部
- バトン部
- バスケットボール部

クラブ紹介

硬式テニス部



僕たち硬式テニス部は、1年生18名、2年生10名で主に活動しています。体を動かしながら人と人の繋がりを大切し、各学年が交流できる場として活用し、大学生活に新鮮さを感じ、充実させたいというモットーを掲げて活動しています。テニスって難しいイメージありませんか?でも、僕たちの大半は未経験者でゼロからの出発で、様々なゲーム方式を交えつつ、技術を向上させるために練習に励んでいます。昨年度の大会では、みんなが良い結果とはいきませんが、勝利という結果を残すことができたので、今後に繋がられる良い経験になったと実感しています。

今年は活動・人間の輪を広げ、新しいことに挑戦するという事で夏休みには、テニスだけではなく、キャンプ場でバーベキューや川遊び等の交流イベントも計画しました。活動時間は季節によってイレギュラーですが、四日市大学のテニスコートや近くのテニスコートを借りて練習しています。テニスに興味がある方は誰でも大歓迎!みんなで楽しく笑いながら青春しましょう。

軽音楽部



私たち軽音楽部は、楽器の演奏や歌を楽しみたいという仲間が集まり創部されました。現在は部員同士でバンドを組み、週に2回活動しています。主に新入生歓迎会や大学祭でのライブを目標として活動していますが、今年の夏は名古屋のライブハウスでもライブを行い、学外進出を果たしました。

創部当初は部員全員が初心者だったので、演奏の基礎から練習を重ね、ひとつの曲を演奏するまでに長い時間がかかりましたが、仲間同士で相談し合い、支え合いながら、いろいろな楽曲に取り組むことで、チームワークを深めることができました。

また、看護医療大学と四日市大学は、交流が盛んだとはいえませんが、私たち軽音楽部は練習を四日市大学の軽音楽部と合同で行っているのので、四日市大学の学生とも交流を深めています。今後もみんなで楽しく、さまざまなことを学びながら活動を続けていきたいと思っています。

国家試験対策、卒業式について(お知らせ)

来春はいよいよ1期生が卒業を迎えますが、その前には看護師・保健師・助産師の国家試験が控えています。本学では教員による国家試験対策支援グループを立ち上げ、学生の国家試験対策をサポートしています。年10回の国家試験対策模試(看護師6回・保健師2回・助産師2回)を始め、夏季・秋季・冬季・直前期の国家試験対策特別講義、ガイダンスなど、4年生全員の合格を目指しています。また、2・3年生対象にも夏季に特別講義と模試を実施し、学力の定着と国家試験への意識を高めるようにしています。

なお、来春の卒業式は、3月10日(木)、四日市都ホテルにおいて挙行する予定です。



新型インフルエンザが、昨シーズンは大流行しましたが、今シーズンは現在の所落ち着いた様相です。本学では11月2日と5日に、学校医 伊藤クリニック 伊藤毅医師によりインフルエンザワクチン接種を実施し、全学年及び教職員の希望者計329名が接種しました。冬季に、1年生は基礎看護学実習Ⅰ、2年生は基礎看護学実習Ⅱ、3年生は臨地実習、4年生は国家試験があります。日々の健康管理で体調を整え、それぞれの目標を達成してほしいと思います。

保健室
だより